

峻 嶺

大町市立第一中学校 学校便り

NO. 4 平成27年 8月28日

「考える力」が必要となる時代に生きる皆さんへ

学校長 塩原 雅由

充実した夏休みでしたか。猛暑が続く一ヶ月でしたが、きっと多くの人が、ゆるやかに流れる時間を使い、好きなこと、やらなければならないことに向き合うことができたことと思います。

夏休み中には、スポーツ、文化活動で一中生が活躍しました。北信越大会では、松村さんをはじめ体操の皆さんが実力を発揮しました。松村さんは個人総合3連覇、女子チームは優勝し、全国大会への出場権を獲得しました。男子チームの皆さんも団体で3位になりました。陸上の畠山君は800mで6位に入賞しました。今や全国レベルにある北信越のこの種目で入賞は立派です。吹奏楽の皆さんは東海大会への出場権は惜しくも逃しましたが、県大会で金賞を受賞しました。また、男子バレーの皆さんはクラブ対抗の北信越大会で3位になりました。こうやって、一中生の努力が結果に結びついたことは、喜ばしいことであり、私たちに勇気を与えてくれます。

二学期をスタートさせるにあたり、皆さんに伝えておきたいことがあります。それは、中学生に求められる姿が、「何を知っている中学生」から「どのような問題解決を成し遂げることができる中学生」に転換する日がもうすぐやってくるということです。

皆さんが生きる二十一世紀後半は、生産を基盤とする社会から知識を創りだし、その知識を活用する知識基盤社会へと様変わりすることが予想されています。単純で画一的な労働を淡々とこなす能力を求められたこれまでの社会は姿を消し、我々が知らない現在存在しない仕事に携わる労働社会が生まれます。皆さんの半分以上が、その知らない仕事に就くこととなります。そこでは自らの意思で工夫を試みたり、物事に対して意味ある問いを発したりする、つまり「考える力」を発揮して働くことが求められます。

生産を基盤とする社会では、「すばやく頭を働かせて物事の変化に対応する能力」は求められても認められませんでした。学校の授業では、決まっている「正解」にどのようにして辿りつかせるかが先生方の中心的課題となり、「わかる、できる」ことを追い求めてきました。それが通用しなくなるのです。これからの中学校は、「正解」が決められていない問題に対して、その状況における「最適な解決策」をそのつど自力で、あるいは多様な友と協同して生み出すことができるように、「考える力」を全ての生徒に育まなければなりません。本年度の公立高校の入試では、回答用紙がB4版からA3版に変わります。思考力・判断力・表現力、つまり「考える力」を試す問題が多く出題されるからでしょう。

第一中学校では、このような時代に対応するために、一学期より「聴く学校の授業」として、協同の学びを軸とした授業を始めました。物事を変えるには、それなりの理由があります。なぜ「考える力」なのか。なぜ「協同の学び」なのか。わかっていただけでしょうか。

まだまだ暑い日が続きますが、目的意識をはっきりさせ、一日一日を大切に歩いていきましょう。

(二学期始業式、講話)

大活躍の部活動

○北信越大会（8／4、8／7）

- ・陸上 共通男子 800m 6位 畠山 龍大（3年） 記録 2分 06秒 96
- ・体操 男子団体 3位 119.8500点
- 女子団体 1位 117.850点（全国大会へ）
（松村朱里、斉藤春季、坂口彩夏、原田野乃花、北澤璃子）
- 女子個人総合 1位 松村 朱里 55.500点
- 3位 坂口 彩夏 50.400点

○吹奏楽コンクール県大会（8／8）

中編制 金賞

○北信越U14クラブチャンピオンシップ

バレーボール大会（8／9）

大町第一VBC（男子バレーボール部） 3位



【体操女子、市長への表敬訪問 8/18】

○全国大会（8／22）

- ・体操 女子団体 3位 115.900点
（松村朱里、斉藤春季、坂口彩夏、原田野乃花、北澤璃子）
- ・女子個人総合 8位 松村 朱里 53.400点
- ・女子種目別跳馬 4位 松村 朱里 14.250点 9位 坂口 彩夏 14.100点
- ・女子種目別段違い平行棒 17位 松村 朱里 12.050点
- ・女子種目別平均台 6位 松村 朱里 13.950点
- ・女子種目別床運動 4位 坂口 彩夏 13.950点 11位 松村 朱里 13.150点

本年度の全国学力状況調査の結果が届きました

新聞でも報道されましたが、本年度の全国学力状況調査の結果が8月27日に学校に届きました。今年の3年生の結果ですが、本校の結果と長野県及び全国と比べた状況を下の表にまとめました。全ての調査教科において、長野県及び全国の結果を上回りました。一昨年、昨年と長野県や全国平均に徐々に近づき、本年度は上回ることができ、大変嬉しい結果でした。

落ち着いた学習に取り組めることや、授業の中で自分の考えを説明したり、話し合う活動をしたる教育活動を意図的に多くしてきたことが大きな要因だと考えられます。

今後、「聴く学校」を実現し、「協同の学び」を軸とした授業づくりの充実を図ることにより、A（主に知識）問題、B（主に活用）問題ともに、特にB問題に強い一中生が育つと考えられます。

細かな結果や考察については、年度末に学校評価の結果と合わせて保護者の皆様にお知らせする予定でいます。

| 本校の結果 | 国語A | 国語B | 数学A | 数学B | 理 科 |
|---------|--------------|--------|---------------|---------------|---------------|
| 長野県と比べて | 少し 上回っている | 上回っている | 大きく 上回っている | 大きく 上回っている | 大きく 上回っている |
| 全国と比べて | 少し 上回っている | 上回っている | 大きく 上回っている | 大きく 上回っている | 大きく 上回っている |

